

令和2年度授業改善推進プラン

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・評価テスト到達状況が80%以下のものとして、漢字54%、話す・聞く65%、書く72%というものがあつた。漢字の定着に差が非常にある。話す・聞くでは、特に聞くを苦手としている児童が多い。 ・読み取りは到達度が80%以上ではあるが、他教科の文章題の結果を見ると苦手としている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字については、2問程度のミニテストを国語の時間に行い定着できるようにすると共に、ノート指導などで既習の漢字を必ず使うように指導をする。 ・聞く力を向上させるために、要点を捉えて話し合い活動をするための充実を図る。 ・図書館支援員の方と連携し、図書の時間に本の読み方について話をしてもらう。また、文章題を解くうえで必要な数値や言葉に線を引き、何が必要なものなのかを理解しやすくする。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・評価テスト到達状況が80%以下のものとして、知識・技能77%、思考判断表現76%というものがあつた。都道府県名の定着に差が非常にある。知識・技能としては、水処理の過程について、定着していなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県名の定着ができるように、地図帳を使って、都道府県名と特産品や地名など関連させながら覚える時間を取る。 ・本時の終わりに学習の振り返りを書き、学んだことの理解度を自分で確かめられるようにする。また授業の最初に、前時の学習の振り返りを行い、前時と関連していることが分かるようにする。 ・資料の読み取りが確かにできるように、全体で一つずつ確かめたり、読み取って分かったことをノートに書いたりして、友達と確かめる。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・「わり算の筆算」では「たてる・かける・ひく・おろす」のアルゴリズムに身に付いておらず、商を立てても、その後の「かける」「ひく」の作業でかけ算、ひき算のミスが目立つ。 ・東京ペーシックドリル診断シートの結果からかけ算筆算の正答率が3割満たない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「たてる・かける・ひく・おろす」の手順を板書で視覚的に明示する。授業の開始3分程度でプリントを使った計算練習の時間をとる。 ・かけ算九九の徹底から、筆算の手順を確実に身に付けさせるために、授業の開始後3分程度の時間を使ってドリル学習を行う。また、習熟度別少人数指導によって児童に合った練習をする。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・評価テスト到達状況が80%以下のものとして思考判断表現73%があつた。個々人として見ていくと、電気のはたらきの回路の部分をかきことが苦手な児童がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を見て、回路のしくみを自分で考えたり、考えたことを実物を使って確かめたりする時間を多く確保する。 ・教科書の巻末にあるノートの書き方や記録カードのかき方、グラフの読み取り方などを学習する内容に合わせて、児童に紹介し、書き方等が分かるようにする。 	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・課題設定の段階で、何を調べてよいか決められない児童がいる。 ・子供が選択するまとめの方法が新聞などと言ったように少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題設定の段階で、調べるものをしっかりと設定すると共に、調べるものをいくつも例示し、自身で課題を選定できるようにする。 ・まとめの方法をいくつか例示したり、他教科で学習したまとめの方法を思い出したりできるように振り返る場面を持つ。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱の際に、自然で無理のない歌い方で歌うことはできているが、思いや意図をもって歌うことが苦手な児童が5割程度いる。 ・リコーダーの演奏において、音色や響きに気を付けて演奏する技能が不十分な児童4割程度いる。 ・音楽を形作っている要素などについて理解が十分でない児童が5割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌謡曲に取り組む際に、曲に込められた思いや背景について考える活動を取り入れ、児童が曲に対して思いや意図をもって表現できるようにする。 ・全体での練習だけでなく、少人数でもリコーダーを演奏する活動を取り入れ、音色や響きに気を付けて演奏できるようにする。 ・新しい曲に取り組む際に、音符や休符、記号や用語について、楽曲と関連付けながら繰り返し指導する。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や立体、工作に表す活動を通して感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことや用途などを考え、表し方を考えることが苦手な児童が3割程度いる。 ・材料や用具を適切に扱える児童がほとんどであるが、扱い方が不十分な児童が2割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な例を提示したり、ポートフォリオ式に思い付いたことを書き込めるワークシートを活用することで、自分の思いや表したいことを確認し、活動につなげられるようにしていく。 ・活動の始めに毎時間、扱う材料や用具について図や写真などを表しながら、安全な使い方を指導する。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に意欲的に取り組める児童が多い。一方で、運動能力の個人差が大きく二極化している。 ・ゲームのルールなど、決まりを守って活動することが難しい児童がいる。 ・反復横跳びが男女ともに平均を下回っている。(全国:51ポイント 本校男女とも47ポイント) 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の場や方法を選んだり、友達のよい動きを見付けたりする。楽しく運動する中で、自らの課題をもたせ、様々な技能を身に付けさせる。 ・友達と運動することの楽しさを味わわせられるように良い動きやできたときに進んで賞賛し自信を持たせる。 ・コーディネーショントレーニングを週1回取り入れ、動きの学習能力をきたえるようにしている。 	
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニングは得意な児童が多いが、発音することを恥ずかしがり、声が小さいことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・間違えても大丈夫なことを伝えと共に、言語を話せるようになるには発音することが大切であることを伝える。発音がしっかりできるように、ALTの先生に一人一人話しかけてもらったり、ゲームを通して発音することを多く取り入れたりする。 	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを書くことができるが、発表することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ考えの人がいることが分かる発表するので、発表後手を挙げてもらうなどで同じ考えを人がいることが分かるような授業を進め、回を重ねることに発表する人数が増えてくるようにする。 	

※ 枠の大きさは適宜調整して、1枚に収まるように作成してください。